

令和4年1月7日（金）

荒川水系（埼玉ブロック）流域治水協議会事務局

記 者 発 表 資 料

荒川水系（埼玉ブロック）流域治水のロゴマークを募集開始！

～荒川水系（埼玉ブロック）流域治水のシンボルとなるロゴマークを一般公募します～

荒川水系流域治水プロジェクトは、従来の河川・下水道管理者等による治水対策に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水対策を進めるものです。

この度、荒川水系（埼玉ブロック）流域治水のシンボルとなるロゴマークを一般公募します。

公募作品の中から、協議会構成員による投票にて決定されたロゴマークは、荒川水系（埼玉ブロック）での流域治水を広く周知・PR するための広報活動に活用します。

記

- 募集期間 : 令和4年1月7日（金）～令和4年2月18日（金）
- 応募資格 : どなたでもご応募いただけます。
- 募集するデザインの主なポイント（詳細は募集要領を確認ください）
 - ①流域治水を表現し、荒川水系（埼玉ブロック）をイメージした、特徴が感じられる作品であること
 - ②伝わりやすく、簡潔なデザインの作品であること
- 賞及び表彰：最優秀賞 1点（賞状、ロゴマークとして採用）
優秀賞 2点（賞状）
- 詳細情報 : 募集要領、応募様式、参考資料については、別紙をご覧ください。
ご一読の上、ご応募ください。

※応募様式の Word ファイルは、荒川上流河川事務所 HP でダウンロードできます。

URL : <https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00927.html>



発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ、
さいたま市政記者クラブ、さいたま市地方記者クラブ、川越新聞記者会
秩父記者クラブ、所沢記者クラブ、上尾記者クラブ、熊谷記者会

問い合わせ先

荒川水系（埼玉ブロック）流域治水協議会 事務局	
国土交通省関東地方整備局 荒川上流河川事務所	副 所 長 <small>よねざわ ひろき</small> 米沢 拓繁
	調査課長 <small>あまい ようへい</small> 天井 洋平
	電話 049-246-6371（代表）
埼玉県 県土整備部 河川砂防課	副 課 長 <small>ながい のりお</small> 永井 儀男
	電話 048-830-5135（直通）

荒川水系（埼玉ブロック）流域治水に関するロゴマークの募集要領

令和 4 年 1 月 7 日

荒川上流（埼玉ブロック）流域治水協議会事務局

荒川水系では、令和 3 年 3 月 30 日に、荒川水系流域治水プロジェクトを取りまとめ、流域全体で早急に実施すべき対策の全体像を示しました。

荒川水系（埼玉ブロック）では、荒川上流域での流域治水の取組を推進するため、下記に基づき「荒川水系（埼玉ブロック）流域治水に関するロゴマーク」を公募いたします。

記

1. 背景・目的

荒川水系（埼玉ブロック）における流域治水の取組への理解を深めていただくとともに、皆で流域治水に取り組み、推進していくことを目指し、荒川水系（埼玉ブロック）流域治水のシンボルとなるロゴマークを一般公募します。ロゴマークは、流域治水を広く周知・PR するための広報活動等に使用する予定です。

2. 募集概要

① 募集内容

流域治水を表現し、荒川水系（埼玉ブロック）のシンボルとなるロゴマーク

② 募集期間

令和 4 年 1 月 7 日（金）～令和 4 年 2 月 18 日（金）

③ 応募資格

どなたでもご応募いただけます。プロ・アマ、個人・グループは問いません。

応募作品点数は、1 人（1 グループ）3 点までとします。

※荒川水系（埼玉ブロック）流域治水協議会において選考に関与する方は不可

④ デザインのポイント

応募作品のデザインは、以下のポイントを考慮して作成してください。

- 流域治水を表現し、荒川水系（埼玉ブロック）をイメージした、特徴が感じられる作品であること

- 白黒印刷や一色でも認識できるもの
- 伝わりやすく、簡潔なデザインの作品であること
- 普及啓発物品・SNS等、広範囲に活用しやすい作品であること
- 流域治水の考え方を説明した参考資料を作成したので、ご参照ください。

3. 応募要領

① 応募の様式

- 必ずデータで応募することとし、作品データのファイル形式はjpg、gif、png形式とし、解像度は300dpi以上、データサイズは2MB以内としてください。
- ロゴマーク縦横比は、3：4～4：3の範囲とします。
- デザインは着色してください。色数は不問です。
- 採用作品は縮小して使用される可能性を考慮した上でデザインしてください。

② 応募の注意事項

- 応募作品は国内外で未発表のものであり、既存の作品と同一又は類似していないこと及び第三者の著作権、商標権、意匠権その他の知的財産権等の一切の権利を侵害するものではないこと、ならびにそれらの違反があった場合には、その一切の責任を負うとともに国に一切の迷惑をかけないことを確約していただきます。

※未発表とは、印刷物、映像、WEBページ等で公表されておらず、各種コンクールで入賞していないものを指します。

※他に類似の例や、商標登録及び商標出願の公表がされていることが判明した場合には、審査結果発表後であっても入賞を取り消すことがあります。

- 採用作品のデザイン及び色彩は一部修正・追加する場合があります。
- 応募に必要な費用は、応募者の負担とします。
- 応募作品の返却は行いません。
- 応募の際、記載された個人情報、法令に基づく場合を除き、本公募に関連する用途以外には使用しません。ただし、採用された作品の氏名、ご所属はホームページ等で公表します（ご要望により氏名等を公表しないこともできます）。

③ 応募作品の知的財産権等について

- 入賞作品の著作権その他一切の権利は、すべて荒川水系（埼玉ブロック）流域

治水協議会（以下「協議会」）に帰属するものとし、入賞者は協議会及び協議会が指定する第三者に対して、著作権人格権を行使できないものとします。

※「著作権その他一切の権利」とは、著作権法第 27 条及び第 28 条に規定する権利及び商標・意匠の出願及び登録をする権利とする。

※「著作権人格権」とは、「公表権」（公表するか否か、公表方法）、「氏名表示権」（入賞者の名前を公表するか否か、公表する場合、実名か変名かの決定）、「同一性保持権」（入賞者の意に反して勝手に改変されない権利）、「名誉声望保持権」（入賞者が意図しない形で利用されることによって名誉を失うことを防ぐ権利）を含む権利とする。

- 応募作品のうち「最優秀賞」作品は関連グッズの製作や啓発物品、Web サイトなどにおいて使用場合があります。
- 最優秀作品を用いた、関連グッズなど二次的著作物の収益については、著作者はその収益を請求することができません。（収益による配当はありません。）

4. 応募方法

① 応募手段

応募用紙の項目をご記入の上、作品とあわせて電子メールにて下記「② 応募書類の送付先」にご応募ください。

件名を「**荒川水系（埼玉ブロック）流域治水 ロゴマーク応募**」としてください。

応募用紙の項目をメール本文に記載いただいても構いません。

※受信確認のメールは致しません。容量超過による未着を防ぐため、複数作品応募する場合は、複数回に分けて送付してください。

② 応募書類の送付先（電子メール）

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 3-12

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所 調査課

TEL : 049-246-6360 Mail : ktr-arajo-chisui@mlit.go.jp

③ 応募書類の提出期限

令和 4 年 2 月 18 日（金） 必着

5. 審査・発表

①応募作品は協議会員にて厳正に審査（投票）を行い、を入賞作品として選定します。

その中で最も投票数の多かった作品をロゴマークとして採用します。

②入賞作品及び作者の発表は、WEB ページへの掲載や報道機関等を通じて公表する予定です。入賞者には、事前に選定された旨の連絡を行います。入賞されなかった方への通知は行いません。

※以下に該当する場合は、審査先行の対象外となりますのでご注意ください。

- ・ 公序良俗に反するもの、著作権その他第三者の権利を侵害しているものもしくは侵害するおそれのあるもの
- ・ 政治的・宗教的・商業的メッセージを含むもの

6. 賞及び表彰

最優秀賞 : 1 点 （賞状、ロゴマークとして採用）

優秀賞 : 2 点 （賞状）

7. 問い合わせ先

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 3-12

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所 調査課

TEL : 049-246-6360 Mail : ktr-arajo-chisui@mlit.go.jp

受付時間：平日の 9 時 30 分から 17 時まで

以上

荒川水系（埼玉ブロック）流域治水に関するロゴマーク

応募用紙

応募者情報

ふりがな	
氏名	
住所	〒
電話番号	
メールアドレス	
ご所属 (勤務先または学校)	
応募者 どちらかに○ ※団体で応募の場合、グループ名 をご記載ください。	<u>個人・団体</u> （団体名：_____）
入賞した場合の氏名等の 公表について どちらかに○ ※団体でご応募の場合は、団体 名を公表致します。	氏名または団体名の公表： <u>可・不可</u> ご所属の公表： <u>可</u> ： <u>不可</u>

応募ロゴマークの説明・コンセプト（100 字程度）

--

流域治水って何？

●流域とは 雨や雪が川に流れ込む範囲と集水域

●治水とは 水害から生命・財産・生活を守ること

近年、毎年のように大型の台風や豪雨が発生し、
全国各地で甚大な水災害が発生しています

今後、こうした状況は
さらに激しくなる可能性があり

これまでの治水対策※だけでは防ぎ切れないことも
懸念されるようになっていきます

それでは、これから治水対策は、
どうしたらよいのでしょうか？

その答えは…



まち全体で、河川の流域全体で、みんなで水災害対策に取り組む
「流域治水対策」にあります。

国土交通省
関東地方整備局
流域治水プロジェクト
についてはこちら➡



●※“これまでの治水対策”とは 各施設（河川や下水道など）管理者が個別に対策を実施（“流域”を意識していないもの）

これからの治水対策

気象変動により激甚化・頻発化する水災害に備えるため、これからの治水は、国・都県・市町村、企業・住民など流域全体のあらゆる関係者が主体となって共に取り組む新しい治水対策「流域治水対策」へと大きく転換することとなりました。



集水域
対策

流域一帯のあらゆる関係者
（国・都県・市区町村・企業・住民）

河川
対策

氾濫
対策

河川区域や集水域だけではなく、
氾濫域を含めた流域全体で対策を行うことで、
水害に強い、安全・安心な地域づくりに繋がります。

国土交通省
流域治水プロジェクト
についてはこちら➡



荒川水系（埼玉ブロック）流域治水プロジェクト 埼玉県管理区間【とりまとめ（案）】2/2

～我が国の社会経済活動の中枢を担う東京都及び埼玉県を守る抜本的な治水対策の推進～

第3回荒川水系（埼玉ブロック）流域治水協議会資料から抜粋



位置図

●被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の見直し
- ・宅地嵩上げ、住宅高床化
- ・中高頻度の浸水想定区域図の作成 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

都市計画とハザード情報との重ね合わせ

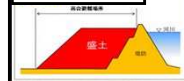


リスク情報図を考慮した立地適正化計画の策定（秩父市）

- 凡例
- 国管理区間
 - 都県管理区間
 - 堤防整備・河道掘削
 - 調節池整備
 - 開発行為時の雨水貯留・浸透施設の設置義務付け
 - ため池等の活用
 - 水田貯留
 - 校庭貯留
 - 下水道施設の雨水貯留
 - 浸透ます・浸透管の整備
 - 住宅等の雨水貯留・浸透
 - 災害リスクを考慮した立地適正化計画
 - 宅地嵩上げ・住宅高床化
 - まちづくりと一体となった土砂災害対策等
 - 避難施設の整備
 - 土地の水災害リスク情報の充実
 - 下水道施設の耐水化



整備イメージ



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削
- ・洪水調節施設（調節池、遊水地）整備
- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・校庭貯留、浸透ます・浸透管、各戸貯留
- ・利水ダム等の7ダム・1貯水池における事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、埼玉県など）等



●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

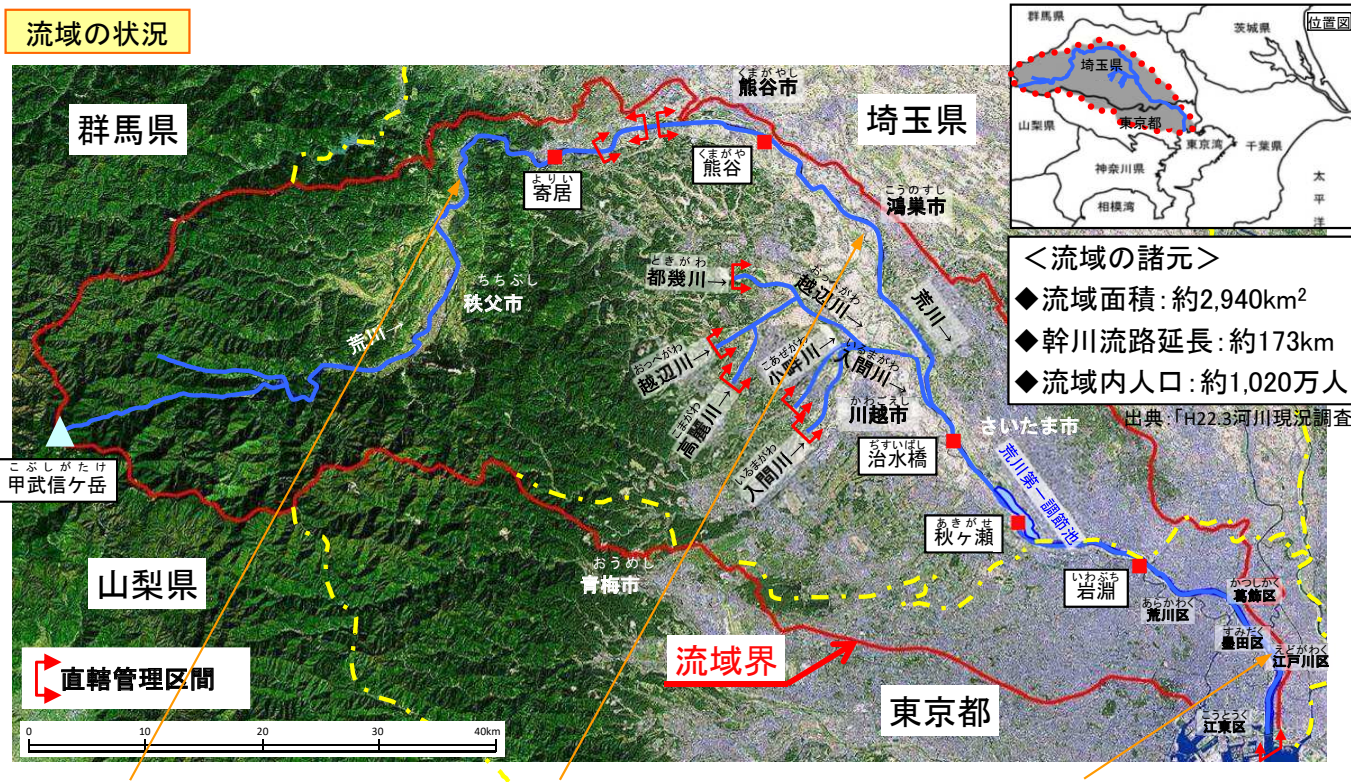
- ・避難施設等整備
- ・広域避難計画の策定
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・他機関・民間施設を含めた避難場所の確保
- ・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
 ※支川は荒川・新河岸川に洪水が流入する河川のみを対象としている。
 ※上図には耐震対策、ソフト対策は含まれていない。
 ※各対策は、主な対策を示している。

1. 事業の概要 (1)流域の概要【1/5】

- ◆ 荒川は、甲武信ヶ岳（標高2,475m）に源を発し、埼玉県中央部、東京都都市部を流下し、東京湾に注ぐ一級河川です。
- ◆ 中流部から下流部にかけて市街地が広がり、特に下流部は人口・資産が集中した低平地であり、流域内には新幹線をはじめとするJRや私鉄各線、高速道路や国道など基幹交通網が整備されており、わが国の政治・経済の中核となる区域を流下しています。

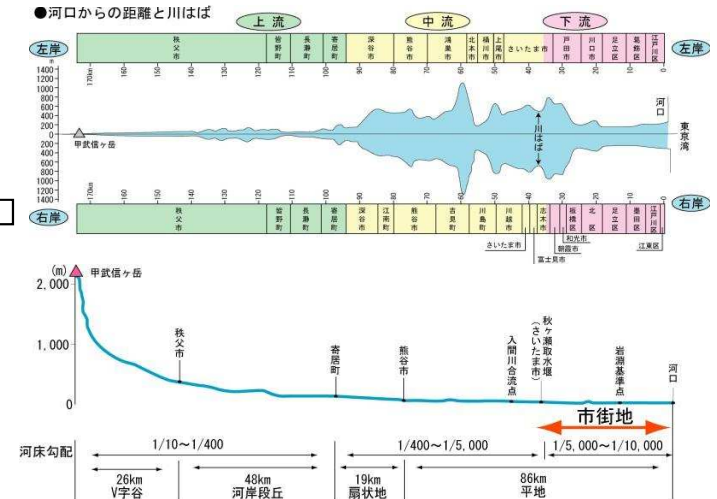
流域の状況



河道特性

- ◆ 荒川本川は、中流部に大きな高水敷を有し、最大で2.5kmの川幅
- ◆ 22kmから下流の放水路区間は0.5kmの川幅
- ◆ 寄居までの上流部では、1/10～1/400の急勾配、寄居から秋ヶ瀬までの中流部では1/400～1/5,000、秋ヶ瀬から河口までの下流部（感潮域）では1/5,000～1/10,000

河口からの距離と川幅



河床勾配



◆ 上流部：山間部の状況

◆ 中流部：広大な高水敷

◆ 下流部：放水路区間の状況

土地利用

